

# Meet the Musicians

楽団員紹介

温かい音色で東響の木管を支え30年

## 福井 蔵

Osamu Fukui

[首席ファゴット奏者] 1989年10月入団

趣味: アイロンがけ、洗濯、家電雑誌を見ること



©N.Ikegami

### 仕事モードの切り替えは喫茶店で

リハーサルの始まる1時間前には会場に、そのまた30分~1時間ほど前に、最寄り駅の喫茶店に入ってコーヒーを飲んだり読書をしたりしながら音楽の“スイッチ”を入れます。ミューザ川崎シンフォニーホールだと1階のエクセルシオールさん、サントリーホールだと隣のドトールさんにかなりお世話になっています(笑)。

東京交響楽団は管弦楽曲だけでなく、オペラやバレエ、こども定期演奏会まで、様々な曲を同時進行で取り組むので、繊細な動きに長けているもの、よく響くものなど様々なリードが必要。常に30本以上持ち歩きます。リード製作は本当に大変なので、緊急事態宣言中にここぞとばかりに160本作りました!ですが、作って置いておくだけではダメになっていく一方なので、最近はとにかく一生懸命吹き慣らして“育成”しています。

### 自分の楽器は、より一層“トッポ”

今年3月からニコニコ生放送による演奏会のライブ配信「#ニコ響」が始まりました。

私が画面に映ると、「トッポ!」とコメントを沢山頂きます。ファゴットが、ロッチェさんのお菓子みたいということなのでしょうが、特に私が使っている楽器は他のメンバーの楽器よりも“トッポっぽい”のです(笑)。というのも、金属のキーが付いている部分が通常より低い位置にあるので、いわゆる“トッポ部分”が長いのです。

これは私の使っている楽器が通常のタイプとは

違い、楽器を分割したときに収納がしやすいよう、一番長いパーツを短くする代わりにベルジョイント(トッポ部分)を長くした「ジェントルマンタイプ」だから。この楽器を手にしたのは20年ほど前、構造全てを指定して注文ができるヘッケル社のものをドイツで購入し、5年の制作期間を経て届きました。元々は通常タイプを頼んだつもりでしたが、私が勘違いをしていて、楽器ケースを開けてはじめて「ジェントルマンタイプ」であることに気が付きました。真っ青になって、すぐにケースを閉じて「これは私のではない」って(笑)。メーカーに電話をしたら「持ってきてくれれば替えてあげるよ!」と言ってくれましたが、ドイツはなかなか行けないし、なにより5年待った楽器だったので、このまま使うことにしました。

生放送は、やはり普段とは違った緊張感があります。生放送後に私自身もコメントを含めて配信を観ますが、自分の演奏を観るのは何だか恥ずかしいです。



通常タイプに比べて“トッポ部分”が長いファゴット(写真左)

インタビュー:事務局